

## 第1回生駒市総合計画審議会（全体会）

開催日時 平成28年6月28日（火） 13:30～

開催場所 生駒市役所 大会議室

出席者

（委員） 中川委員、久委員、森岡委員、永野委員、大原委員、梶井委員、中山委員、  
村上委員

（事務局） 坂本市長公室長、石畑市長公室次長、坂谷政策企画推進課長、  
岡村政策企画推進課課長補佐、日高政策企画推進係長、高松政策企画推進係員

欠席者 加藤委員、楠下委員、幸元委員、中谷委員

議事内容

1 諮問

2 市長公室長挨拶

3 (1) 総合計画の進行管理について

(2) その他

**【事務局】** 開会宣告、諮問、公室長挨拶、委員紹介、事務局紹介、配布資料確認  
以下、発言要旨

**【事務局】** ここからの議事につきましては、中川会長より進行の方、お願いします。

**【中川会長】** それでは、始めさせていただきます。案件1番目の総合計画の進行管理について、事務局から、まずご説明をしていただく。

**【事務局】** 後期基本計画の進行管理についてというところだが、後期基本計画を構成する最も基本的な単位である51の基本施策を対象として検証していきたいと考えている。続いて、進捗状況についての検証方法だが、市民実感度と指標の2つを用いて、客観、主観の両面から検証を行う。その上で、本審議会において、行政内部で判定した進捗度について進行管理検証シートをもとに審議を行い、審議会からの意見を付した上で最終的な計画の進

捗度を判定する。

検証の進め方だが、昨年と同様に、3部会に分かれて、部会3回と、全体会2回程度で検証報告書を取りまとめたいというふうに考えている。部会については、来月7月中旬から8月上旬にかけて、部会ごとにそれぞれ3回の開催を予定している。各部会で検証いただく分野については、昨年度と変わっていない。

**【中川会長】** 何かご質問等あるだろうか。

**【森岡委員】** 進捗状況の検証についてだが、それぞれ担当部課からの進捗度に対しての評価だけということになってしまうのではないかと。担当部局で進めた仕事を、市民のいろんな目線で評価をしていけばどうだろうか。また検証シートについて、行政内部で測った進捗度以外についても、質問をさせていただけるとより良いのではと思う。

**【中川会長】** つまり、総合計画の各章、節ごとに区切られている51の事業に区切って評価をしていくわけだが、その中で事業同士でまたがるような課題があるのではないかと。分野別に区切るとどうしても意見として言いにくいことも出てきてしまう、それが論点の一つではある。だから、会議の中で、参考意見として、分野をまたがるような意見であっても、こういうことを言いたいということはちゃんとその場で記録に残してもらって、関連部局に伝えるというふうに約束してもらえれば、それはある程度、問題解決になると思うのだが。それからもう1つ、行政内部から出てきている評価を受け止められないといったときに、委員会側の主観でもって、それを変更するということは当然問題がない。それでいかがだろうか。

**【事務局】** 皆さんからいただいたご意見は、さまざまな形で各担当課の方に返していくので、多様な視点でのご意見をいただきたい。

**【中川会長】** 数年前に悩んだのは、外部評価をいきなり持ってくるより、定量的に内部で評価をし、前さばきをして、絞り込んだ形で審議会へ持ってくるのがマナーでしょうという考え方があった。そうしてできた今のやり方はとてもよくできている。そして、定量的に客観的に持ち込めば持ち込むほど、行政と審議会での評価のずれは少なくなっている。

もう一つの話は、部門が51事業の部門に区切られた評価なので、例え

ば他部局と連携してやったら、もっといいじゃないかとか、この仕事はこの範囲だけの話じゃないだろうと、もう1つ手足を伸ばして、事業を広げていくとか、そういう提案も必ず出てくると思う。今の評価方法は、かなり客観性に近づいてきたなと思うが、それであるがゆえに評価の箱が固くなってきてしまっているという窮屈感もある。なので、こちらから出てきた意見については、何らかの形で原課からまた返してもらって、対話が成立するようなそういう仕組みを今回は少し加えるというふうにしていたらと。

**【久会長代理】** 分野全体の進捗状況というのが意見として一番まとまっていくところで、行政側のA B C D Eの5段階評価の隣の進捗度の検証の理由で、どうしてCなのか、どうしてBではないのかというのが、ここに書かれているはずである。それが書かれていない場合は、何の判断でこうなったのかという質問を投げかけることになってしまう。もう1つ、突っ込んで言えば、今、Cであるとしたら、これをB、Aに持っていけないといけないと思う。ではどうしたらBになるのか、どうしたらAになるのかということを読み取れるかどうかというのは非常に重要であって、そこが書かれていなければ、次のステップが見えないので、それについての記述がしっかり書かれているかを私は判断、評価させていただいているということになる。

**【中川会長】** 評価をするときに大事なものは、4年後のまちという一番のスタートラインである。これに対して、最終的にどうなのかということの評価するために、我々の感性でもって見てもよいと思う。ただ、CのものをあえてDにするような時は、こちらがそれに関する理由を述べないといけない。

**【森岡委員】** 検証シートに書かれている、今まで取り組んできたものに対してどうだったのかということ聞かれている。しかし、おかしいなというところは、それとは別に市民としてはあるわけである。考え方として、何をこの中で検証してほしいのかと、どんな立場でやってほしいのかと、それが具体的にできればいいと思う。

**【中川会長】** 審議会というのはあくまで外部機関で、内部機関としての行政内部での評価が科学的に定量化されればされるほど、双方、共有できるが、最終的には価値観の問題とすれば、内部、外部では共有できない部分もある。た

だ、外部の視点を入れるといったところに価値があるので、必要ならば事前にこういう資料が欲しいという委員の意見があった場合、それは提供していただきたい。それから、それ以外の生活実感から来る意見も十分そこに反映することも委員会の共通理解ということでもいいのではないか。行政側とは違う一定程度の市民側の生活実感とか、違う視野からの分析とかいうものを加えるというところを文章化できると良い。

**【事務局】** 総合計画審議会を外部評価でやっているという趣旨は、もちろん市民実感をお聞きしたいということが第一の目的で、かつ、4年後のまちに向けてどれだけ進捗できているかというところを評価するに当たって、この検証シート以外にご意見が出るのはこちらとしてはありがたい。なので、事前にそういったご意見を頂戴できたらお答えしたいということで、今回この質問票を用意させていただいた。

**【中川会長】** この質問票はうまく活用してくださると、前もってデータなどが出てくるということになる。

**【梶井委員】** 質問票を出した項目については、回答次第で進捗度の評価というのは変わる可能性があると思うが、その場合は一旦保留で提出してもよろしいか。

**【事務局】** 保留でも問題ない。部会当日に回答結果を見て、ご変更いただいで構わない。

**【中川会長】** ほかにご質問、ご意見ないようなら、次は部会になる。みなさん、各部会での検証作業、お願いします。

**【事務局】** 委員の皆様には、3週間連続でタイトなスケジュールとなるが、どうぞご出席賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。それでは、ただいまから、各部会の会議資料をお配りするので、部会までにご覧頂き、当日持参いただきたい。

**【中川会長】** それでは皆さん、ありがとうございました。

**【事務局】** 閉会宣告

— 了 —